

国語科6年「ようこそ、私たちの町へ」

磐田市立豊田北部小学校 森本 光

1 はじめに

本学級の児童は、課題に対して真面目に取り組む子が多いが、学習への関心度の差が大きく、自分の考えに自信がもてず進んで表現することに課題が見られる。また、国語においても、書くことに対する苦手意識をもっている子も多い。そこで、子どもたちの思いを生かし主体的に取り組めるような学習課題を設定し、友達と関わり合いながら学習を進めていくことで、意欲をもち、自分の考えに自信をもって明確に表現することができるのではないかと考えた。

2 実践

(1) 体験から学習課題を設定する

総合的な学習の時間で「歴史の扉を開く」をテーマに、子どもたちの住む、磐田市豊田地区の歴史探検を行った。それぞれのグループに分かれて地区を探検し、歴史を調べたりインタビューをしたりして、地区の歴史に触れることができた。探検を終えた子どもたちは、見てきたこと、調べてきたことを他のグループの友達にも知らせたいという思いをもつ子が見られた。そこで、豊田地区の歴史を伝えるパンフレットを作る活動を設定した。普段は、学習意欲の高まりが見られない子も、調べてきたこと、見てきたことをまとめていくという課題を設定したことで、「どうしよう」「何を書けばいいのだろう」という迷いや戸惑いが少なく、意欲をもって活動に入ることができた。

(2) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

①パンフレットのモデルを示す（視覚化）

パンフレットを作成する際、どのようにまとめればよいか迷う子どもがいることを想定し、教科書に示されている構成例以外に、よりシンプルな構成例のモデルを示すこととした。そうすることで、書くことが得意な子も苦手な子も、自分に合った形を選択し、自分なりのパンフレットを作ることができると考えた。書くことが得意な子は、それぞれのモデルをもとに、自分がまとめたい形を選び、さらに自分なりに工夫してまとめようとする姿が見られた。また、書くことが苦手な子も、モデルを参考に、まとめやすい形を選んで、書こうとする姿が見られた。

②情報を共有する（共有化）

パンフレットにまとめていく中で、自分が調べてきたことが曖昧だったことやもっと知りたいという子どもが出てくることを予想し、情報を共有化する時間を設定した。同じ場所について調べた友達同士で情報を伝え合い、内容を詳しく確認し合った。自分が調べた情報が合っていたことに安心し自信をもったり、新しい情報を得て更に内容を深めたりしようとする姿が見られた。

③下書きを読み合う（焦点化）

下書きしたものを、友達と読み合いアドバイスをし合う活動を設定した。「分かりやすい」や「読みやすい」といった具体的ではないアドバイスをし合うことが予想されたため、事実と考えを区別した書き方や見出し、レイアウトなどの工夫といった内容面と、誤字脱字などの表記面に焦点化しアドバイスをし合うようにした。そうすることで、具体的なアドバイスが増え、推敲する力が少しずつ高まってきた。

④パンフレットを読み、感想を交流する（共有化）

完成したパンフレットをクラスみんなで読み合い、感想を伝える活動を行った。「初めて知ったことがたくさんあった」や「自分がまとめなかったことが書いてあった」という感想だけでなく、「見出しが工夫してあり読みたくなった」「事実と感想が分けて書いてあって分かりやすかった」「写真やイラストが効果的に使っている」など具体的な感想を伝える子どもも見られた。また、自分たちのクラスだけではなく、他のクラスのパンフレットを読み合う時間も設定した。たくさんパンフレットを読み合い、振り返りを行うと、「自分が気付かなかったことをまとめていて驚いた」「自分の作品をたくさんの人に読んでもらえて良かった」「難しい言葉を辞書で調べてももっと分かりやすくすれば良かった」など、友達のパンフレットの良さに気付くとともに、自分のパンフレットの良さや課題に気付くことができた。

3 成果と課題

子どもたちが体験したことから学習課題を設定したことで、子どもたちは、意欲をもち主体的に学習に取り組むことができた。また、子どもが感じる問いや思いを予想し、ユニバーサルデザインの授業を意識した手立てをうつことで、自分の考えを明確に表現しようとすることができた。さらに、友達と関わり合いながら学習することで、自分の考えが深まり、よりよいパンフレットになっていった。

しかし、一人一人のパンフレットを細かく見ていくと、より効果的な構成や記述をする力を付ける必要があると感じる。付けたい力を押さえ、意欲をもちながら一人一人の書く力が高まっていく指導を考えていきたい。